

2021年度 学校評価(自己評価)

学校法人 相愛学園
武蔵野相愛幼稚園

当園教職員の自己評価に合わせて、保護者代表の評議員にも評価をいただき、2021年度の保育の総括と園運営についてまとめました。これを受けて、次年度も保育の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 園の教育目標

武蔵野相愛幼稚園の建学の精神である「相愛」(互いに愛し合ひましよう)の実践の場として、キリスト教を基盤とする保育を行う。

礼拝や日常の保育を通して、目には見えない神さまを知り、神と人々に愛されている存在として安心して過ごし、希望をもって生きることを大切にする。また、周囲の人々と喜びや悲しみの感情を共にする生活の中で、すべての人が神さまから愛されているかけがえのない存在であることを知り、互いに尊重する関係へと育ちあう。

一人ひとりの子どもが、その子らしさを大切に、友だちや保育者と出会い、満足するまで遊ぶ体験を重ねることを通じて、共に生きることの自信を培う。

II. 2021年度の重点目標

保育の年主題に「共に喜んでーすべての歩みの中ー」を掲げ、新約聖書 コリントの信徒への手紙 I 12章26節より「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。」の聖句をその中心に据えて、どのような時も神の愛の御手の中にあることを「共に喜び」、お互いの存在を「共に喜び」ながら歩む一年としたい。また、本年度も新型コロナウイルス感染症予防のガイドラインに従い、予防に努めつつ、日々の保育を休むことなく続ける。また、行事に関しては、工夫や見直しをしながら出来ることを前向きに行い、子どもの育ちを保障していく。

III. 2021年度の評価項目の達成 及び 取り組み状況

教育課程

取り組み状況	評価	評価と改善に向けて
1,教育目標 「愛する者たち、互いに愛し合ひましよう。 愛は神から出るもので、愛する者は皆、 神から生まれ、神を知っているからです。」 (ヨハネの手紙一 4章7節) の実践の場が武蔵野相愛幼稚園であり、2021年度は 「共に喜んでーすべての歩みの中ー」を重点目標に 掲げ、どのような状況の中でも神さまの導きを信じ、明 日に希望をもって歩む一年とする。	A	日常の保育や行事等の計画を共有し、意見を出し合 いながら実践してきた。 礼拝や日々の祈りを通して、一人ひとりが神さまに愛 され、大切な存在であると感じられるように願って保 育に努めた。
2,保育日数・保育時間 保育日数186日 年少組 月、火、木 9:00～13:30 金 9:00～13:00 年中、年長組 月、火、木、金 9:00～14:00 全園児 水 9:00～11:30	A	毎日の保育や行事を行うことができたのは、保育者の 努力だけでなく、保護者の理解と協力があったこそ だった。 例えば、新型コロナウイルス感染予防のひとつとして、降園時 間が重なる時は、密を防ぐために各学年ごとに使用 する門を分けて、分散して帰るようにするなどの工夫 が挙げられる。

<p>3,保育の計画と実践</p> <p>コロナ禍であっても、子どもの育ちに必要なこと、保育の中で出来ることは何かを考え、実践する。 また、新年度や節目の際、また、コロナの状況が変わるたびに、保育の形や弁当の際の注意点など、再確認しながら保育してきた。 一人ひとりの育ち、クラスの特色を担当だけでなく、教職員全員で共有し、保育にあたるように努めた。</p>	B	<p>小規模の幼稚園だからこそ、担任だけでなく保育者全体で子どもの様子を捉え、育ちを支えていくことに努めた。本務教員に加えて、預かり保育の担当や時短勤務の者、非常勤等、働き方が多様なので、情報の共有がなされるように努力した。しかし、情報の共有については課題が残るので、有効な方法を模索中である。</p>
<p>4,行事</p> <p>行事も少なく、保護者が園生活を共有する機会がほとんどなかった。制作物、壁面の飾りひとつでも目に触れたり出来るような工夫をした。</p>	A	<p>コロナの感染者が減少してきた秋には、年長組は奥多摩に出かけ、その後、幼稚園に宿泊したり、各クラス共、広い公園で親子で遊ぶ計画を立てたり、アイデアを出し合いながら実践してきた。</p>
<p>5,保育の在り方・幼児への対応</p> <p>丁寧、大切、尊重を心に刻み、一人ひとりの心の思いに耳を傾け、子どもと接することを大切にしたい。一人ひとりの気持ちに寄り添い、そこから先に進む筋道を共に考え、時には子ども同士で考え、指し示していく事を実践しようと努力した。</p>	A	<p>園児一人ひとりの気持ちに寄り添いつつ、しかし、そこにとどまらず、その先の育ちを支えるために努めてきた。</p>
<p>6,保護者への対応</p> <p>コロナ禍により保護者と登園降園の時間に話すことが制限されたが、顔を合わせた時にはその子のエピソードを短くでも伝えられるようにした。</p>	A	<p>保護者会が実施できるときは開催し、実施できないときにもクラスだよりを発行して子どもの育ちを伝える機会を設けてきた。</p>
<p>7,保育者の研修・資質向上</p> <p>オンラインによる研修会に参加し、保育の向上に努めた。</p>	B	<p>園内研修は定期的に行っているが、2021年度を振り返ると、個人の研修参加の機会が少なくなっていた。保育者一人ひとりの意識と努力が必要。</p>

学校運営

取り組み状況	評価	評価と改善に向けて
<p>1,組織・園内分掌・会議</p> <p>園長のリーダーシップのもと、会議の中で一人ひとりが意見を出し保育を進めていく。 各々が勤務時間内に自分のやるべきことを自覚し行動する。</p>	A	<p>自分のやるべきことへの責任と全体を見渡す力を年齢や経験に関係なく、各々が身に付け、周囲の気配を感じる力を養いたい。</p>
<p>2,出納・経理</p> <p>年度予算に則りつつ、無駄のない執行を心がけた。</p>	B	<p>教育水準向上支援や教育支援体制整備など新しい補助金加わり煩雑さは増しているが、補助金申請の手續きにあたっては瑕疵のないよう充分留意して臨みたい。</p>

<p>3,施設・設備</p> <p>園内、園舎内の点検を定期的に行い、子ども達が安全に過ごせるように環境を整える。</p>	A	<p>遊具や園舎の設備に、修理、もしくは購入が必要であれば、その都度検討し、改善に努めた。</p> <p>今後、預かり保育の重要性が増すことに備えて、夏休みに園舎二階管理棟の改修を行った。</p> <p>整ってきた園をどのように使っていくのかは保育者次第であるし、そうやっていった意味を思い起こし、子どもの生活を落ち着いた環境にしていきたい。</p>
<p>4,健康・安全</p> <p>新型コロナウイルス感染防止対策として、毎朝の検温、登園時の手指消毒を徹底する。保育中は換気をし、活動内容も密にならないよう工夫する。</p>	A	<p>新型コロナウイルス感染症対策に加え、地震や火災などの災害を想定し、毎学期、避難訓練を実施した。</p>
<p>5,情報</p> <p>ホームページやクラスだよりを用いて、子どもの様子を発信する。必要があれば、メール配信で保護者や教職員へ情報共有を行う。</p> <p>行事や保育での子どもの様子を動画に撮り、YouTubeにアップし、その動画は、ホームページに掲載して保護者と共有した。YouTubeは、限定公開(URLを知っている人のみの公開)にし、情報が漏洩しないよう保護者にも拡散しないようお願いした。</p>	B	<p>伝言ノートやメール、LINEのチェックをこまめにするのが難しい補助教員が多い。会話や保育の姿勢を示し、共に保育を進めていく意識の共有からスタートし、全員で子ども理解に努める。</p>
<p>6,開かれた幼稚園</p> <p>新型コロナウイルス感染防止のため、保護者の保育の参加は難しいが、園児の様子の情報発信は怠らないよう努めていく。</p>	B	<p>保育の様子がわかるように、行事や保育の様子を動画撮影し、ホームページに掲載した。</p> <p>地域に愛される幼稚園でありたい。</p>
<p>7,保護者会・母の会・父の会</p> <p>新型コロナウイルス感染対策をとりながら、保護者会を実施する。</p> <p>母の会、父の会も、感染対策をとりつつ、できることを園と保護者と相談しながら実施していく。</p>	A	<p>密を避けるため、保護者会は、全学年一緒にでなく、学年ごとに分かれて実施した。</p> <p>今年度の母の会の係の活動は、新型コロナウイルス感染対策に気を付けつつ、活動できる係が、園と連携しながら、工夫して行った。</p>
<p>8,園児募集</p> <p>入園説明会は、新型コロナウイルス感染対策をとりながら、園の雰囲気を感じられるよう、園に集って、対面式で行う。</p>	A	<p>新型コロナウイルス感染回避のため、入園説明会に来ることが難しい保護者のことも考え、園の様子がわかる写真や映像、テキストを用いて、動画を作成した。</p>
<p>9,教育実習</p> <p>将来の保育者育成の重要性を思い、実習中の健康管理に配慮しながら受け入れる。</p>	A	<p>実習希望の学生を受け入れ、後進の指導にあたった。</p>

社会貢献

取り組み状況	評価	評価と改善に向けて
1,地域との連携 コロナ禍で、不特定の人との交わりは難しいが、卒園生や近隣の方から農作物の育て方を教えていただいたり、教材をいただいたりした。	A	七夕の笹を、卒園生所有の竹林に切り出しに行かせていただいたり、創立85周年記念礼拝の時には、近隣の各世代の卒園生を招き(6名)、共にお祝いました。 就学先の小学校と電話連絡で、引継ぎを行ってきた。
2,保育の公開 新型コロナウイルス感染防止をした上で、見学や外部の人々の来園を少しずつ再開した。 また、ホームページを用いて、保育の公開を行った。	A	保育の写真などを見せながらの保護者会やちょっとした触れ合いの時間を捉える柔軟な対応を考える。
3,各種研究会への協力・支援 園長が東京都私立幼稚園教育研修会主催の「新任者研修」の講師を務め、「幼稚園教諭としての心構えと身だしなみ、同僚との連携」について講演を行った。これは、5月12日～17日にオンラインで配信された。	A	オンラインや動画配信での研修会が増えているため、園で活用しているような動画編集の技術を用いて、協力していきたい。

結果について

- A 十分に達成されている
- B 達成されている
- C 取り組んだが、成果が十分でない
- D 取り組みが不十分である

2022年度 今後へ向けて

以前にも増して預かり保育の需要が高まっているので、14時までの保育と預かり保育を完全に分断するのではなく、両方の特質を大切にしながら一貫した生活が送れるように連携していく。また、保育者間の情報の共有は口頭だけでなく、文書で伝えたり、メールを使ったりすることで皆が同じ意識を持って保育ができるように努めていきたい。

幼い子どもに関わる社会の変化が激しい時を迎えており、気掛かりなことは尽きないが、変化に踊らされず、目の前の子どもの育ちをじっくり見極め、育てる幼稚園でありたい。目指すところは、大人にとって都合の良い場所ではなく、親子にとって心地の良い場所であり、時の流れでありたい。柔軟な思考で出来る事を考えて行う。保育者間の楽しく、有益なコミュニケーションの取り方を考えていきたい。